

「つまりわたしはまじよなんだ」

あゐむざわんおぶべすとじーにすとはべすときりりーだー

あ く の は な し
ルビネの話
悪の語

近所の山で迷子になったとおとこのこのまえに
あらわれたおんなのこはそうしめくくりました

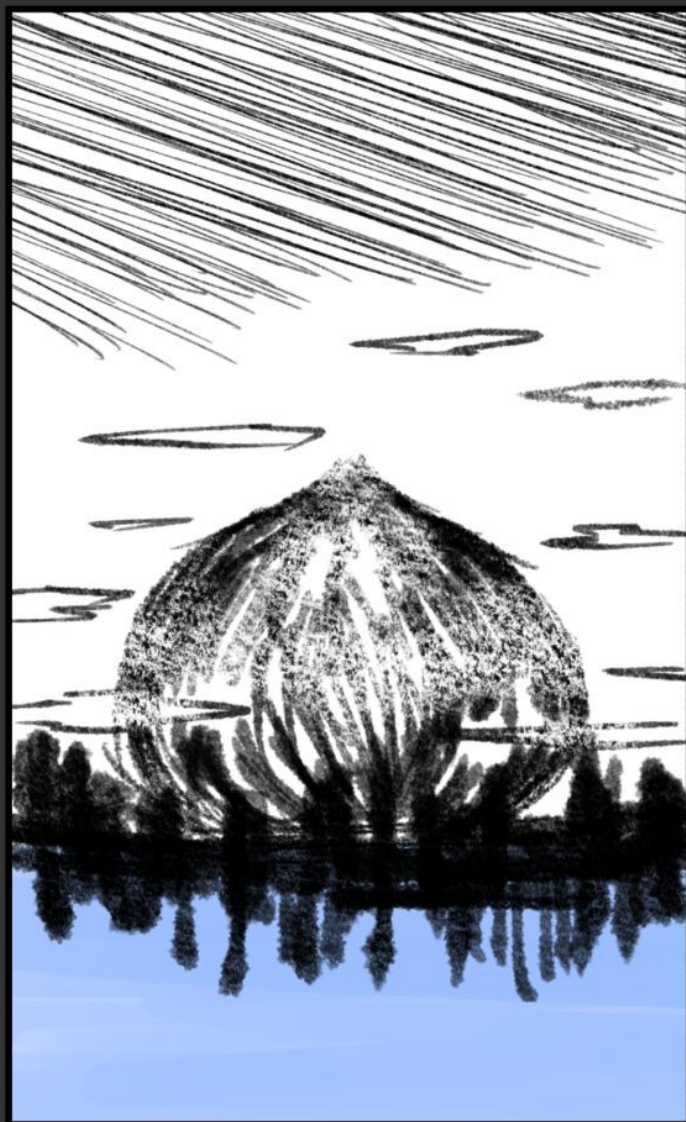
「ちぎにいくから

おしてくれなんだ」

すこし^{たか}高いところに登る時^{のぼ}、おとこのこの視界^{めのまえ}が、
無防備^{むぼうび}なかわいなおしりでいっぱいになります。

ばっどあす・しやったーどれるむ
最悪のオブジェクト

「たまねぎ山」^{やま}



ここの検証^{みはり}のために
はるばるまほうのくにから
外征^{がいせい}んできたというのです。



「おまえみたいないっぱいばんじんを
たすけるのもしゅぎょうのいつかんだ」

魔女っ子ルヒネは同年代くらゐながら
とつてもりっぱなおんなのこです。
おまけに清潔高級白人美少女です。



「つてなにしてる！」
「たはは……つい」

た、たいへんです！

おとこのこの指がまちがつて

たからしま

でりけーとばれー

衣服ごしにルヒネの美尻の中央の窪みに

えんりよなくずぶりとしずみます！



「うえーやっちまった…」
「やめるのだ！」

そこにかわがある

からあらうんだ！」

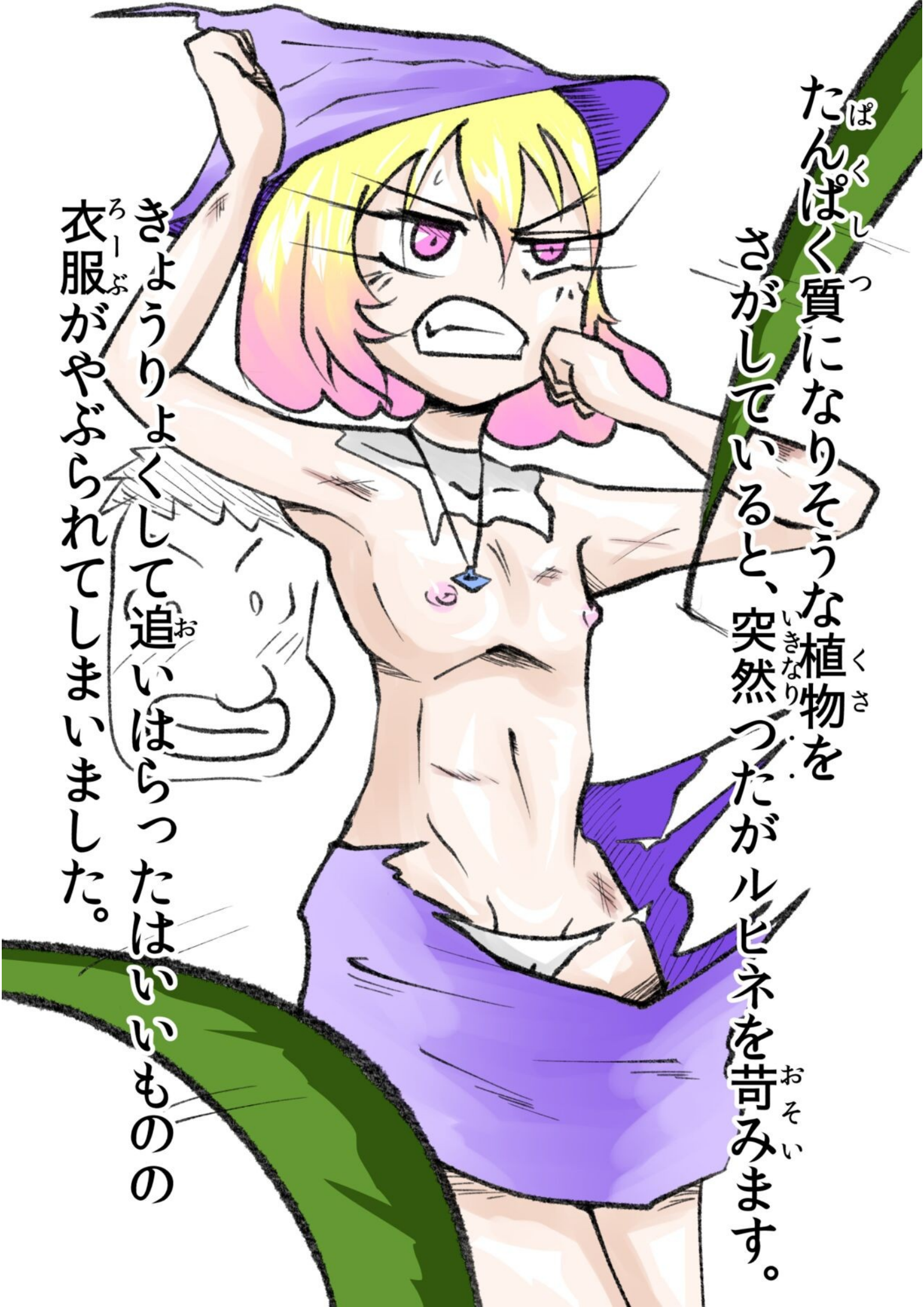
なんと腹^で立た^りじ^いな反^し応^じでしよう！
おとこのこはルヒネの窪^るみ^ひにはいつた
くさいわけのない
浄化されたゆびをいやそうにかいでいます。



たんぱく質になりそうな植物を

さがしていると、突然つたがルビネを苛みます。

きょうりよくして追いはらったはいいものの
衣服がやぶられてしまいました。



「みたいなんてえっちめんだな、きみは」

ぼーっとみているおとこのこは
わざとらしいポーズをしてみると
ほんにんも事の重大さにきづいたようです。
しかし……



「え、えろじゃねーし！」

この^{としごろ}年頃のおとこのこにとつて「エロ^{えろ}い」は禁句^{たぶ}です。
ル^せヒ^かネ^いの乳房^{いさん}がつままれてしま^おいました！
超^み然^すとしたル^あヒ^すネも目^なを丸^おく^どします。



「ここにはわたしがあたらしくふくをつくるために
ひつような『ノヤヨペト草』がはえてるはずだ。」

あれだけの原罪を手打ちでゆるされた
おとこのこと植物さがしをはじめます。



ポニヤフコベヌニ草を
みつけました。



作業台にはいつて数刻い
あたらしい服ができました。

「これがまじゅつ『おさいほう』だ」
軽装に身を包んだ
ルヒネとさきにすすみます。



「いのさきいくなら

らう」ときけや」



すごい変^びなやつ^とが
とおせんぼ^こしています。

「たまねぎ^こやまのひと^こ…

もしくはあがり^あびとだ^{せんでつど}」

かれらを尊重^{よいしよ}し、ほしがるものを
ささげるのが賢明^{くれぼー}だろう、と
ルビネはつけくわえました。



「かおらんおきんぐいばん」



「おおばんつみせてーや」

「そんなのでわたしがいもひくとも！」
レヒネはおしげもなくスカート^{とすか}をめくり
10分^{ばら}ほどそのなかみをみせつけます。

しかしさきほどのつたこうげきで下着^{ろす}をなくして
いるのをきづいていません。
つまりだいじな女性器^{あそこ}をみられてしまったのです！



たですじ
女性器をみせてしまった

後悔しよつくから二時間すくらいさかけて
切り替たちあえようとろうするもい

よわつたルヒネの足元あしを
くだんのツタやつさんがねらいます！



不幸！^{むねん}ルヒネはおとこのこの顔面^{はな}に

しりもちをついでしまいました。

毛^{へあ}もはえていないすべすべのおまたが
密着^{ぴつたんこ}して白昼^{ひとめ}に晒^{ばら}されてしまったのは、
のがれようがない確^{のんふいくしよん}定的な事実です！！



「み、みてはいけないんだ……」

「うおあ!?!ぼくのかおでなにやつてるんだようお!?!」

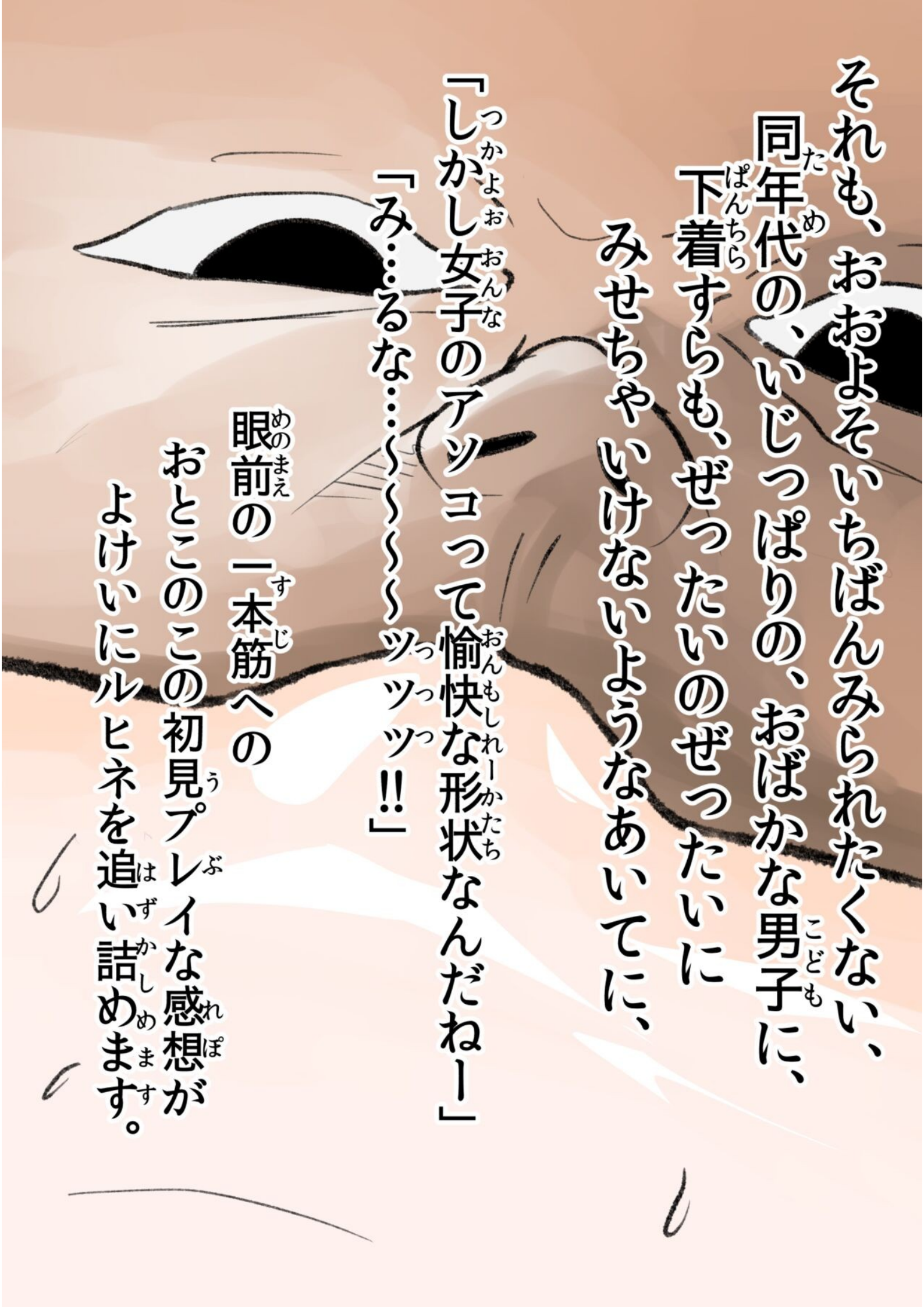
股^{まんげ}下のおとこのこからは

隣^に接^あしたおまたの匂^{でいすていんぐもできる}いもわかるでしょう。

「もう。。。やなんだ」泣きつづ面に蜂です。
そのシヨツグたるや想像を絶します。



いかに気丈に振る舞つてきても
異性に素肌を見せられない育ちですもの。



それも、おおよそいちばんみられたくない、
同年代の、いじつぱりの、おばかな男子に、
下着すらも、ぜつたいのぜつたいに
みせちゃいけないようなあいてに、

「しかし女子のアソコって愉快な形状なんだねー」
「み……るな……」

眼前の一本筋への

おとこのこの初見プレイな感想が
よけいにルヒネを追い詰めます。

「くっせーもんみせてきやがつて
このしよ^しうべん^むむれ^れむす^すめめくく!!」
と、おと^{くそ}このこ^{やろう}は^う回^い走^きります。

ふざけるな
なんと! おちこむ^はル^りヒネの
おしりに^てAAAをかましたではありませんか!!



「わたしのかれんなおまたのどくさいのだ！」

においにとくべつ^{せんしていぶ}過敏なルヒネは

おもわずおこり、たいせつな股間部^{るひね}を再度^{また}

おとこのこの顔面^{つら}にくつつけたではありませんか！



(しかしみようだ、ふうんがつづく、もりぜんたいが
わたしにあくいをむけているような――――)



かすやろう
おとこのこの凶行に

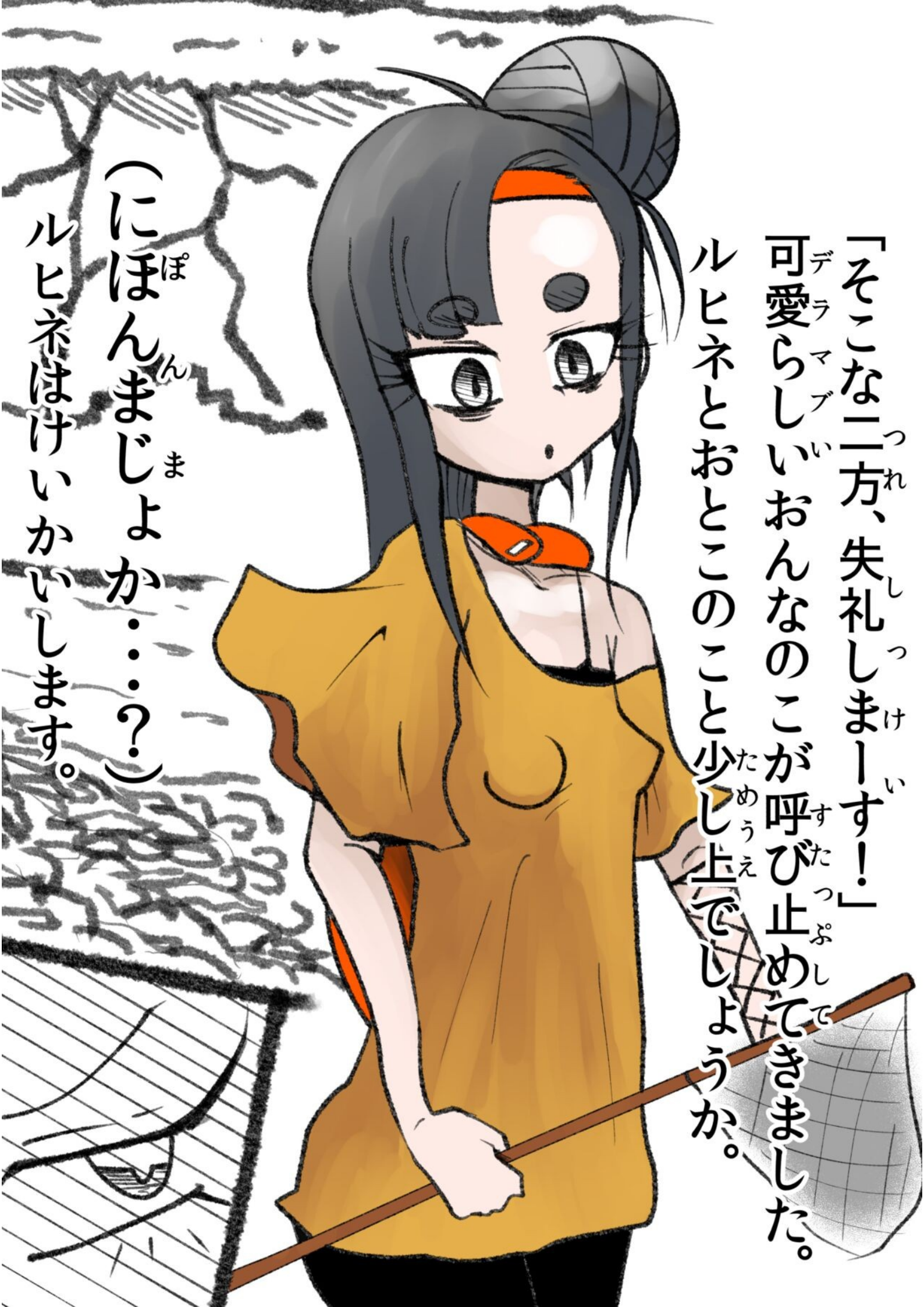
あいすえいじ

冷静さをとりもどしたルヒネ、

なにかにきづきかけます

「そこのな二方、失礼しまーす！」
可愛らしいおんなのこが呼び止めてきました。
ルヒネとおとこのこと少し上でじょうか。

(にほんまじよか・・・?)
ルヒネはけいかいします。





「ぼく、「ユノ千」いいいます。
たまねぎ山は管轄のため
此度の外征の目的を
開示いたたくつちや。」

「いつせーので
いおうか」

たまねぎ山は
夢の象徴です。

たといつか

噴火^{どーん}するとしても

ふるのは希望^{まほう}

でしょうがよ！

たまねぎ山は悪^{いけな}の象徴だ。
悪意^{まりす}をもつて噴火^{みぜる}する…

それをつきとめるのが
本場^{ほん}の魔女^まとしての使命^{たすく}だ！

てな具合^{まつぷたつ}です

「よそもん……ではありませんが」
えねみー

けんかはなさそうですね。

ぼくは「三層」をめぐらしてありますんで。」
かんぱりしてい
しやにいて

「再見つちや」そう言うのと森林で遭った
ではまたあえたら
もり

可愛らしい女の子・ユノチは消えました。
ぱいおつかいでーででらべつぴんなじよし
どろんし



「べつぴんだつたなあくあのこ

だれかさんとちがつてむねもあるしよお」

「がんちゅうにないと!?

おのれおらつきよつてむしとりあみおんな!

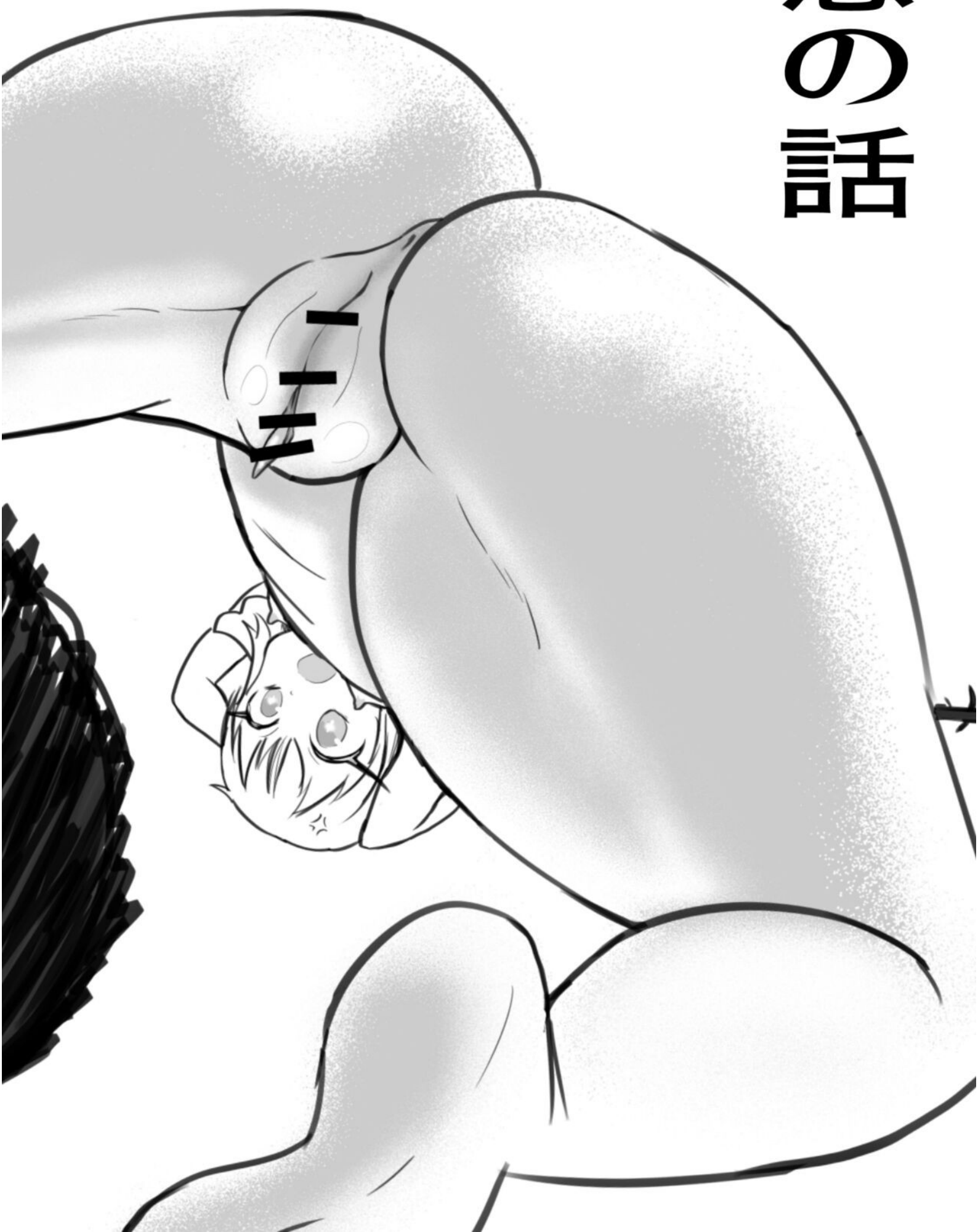
かつこいいつえかえないびんぼうまじよめ!!」

只者じゃなさそうな日本魔女コノチ、

次に遭った時、勝ち目はあるのでしょうか。



悪 の 話



「おまえ^す、ここ^てでま^いつて^だる^んだ」
「は^うらく^だん^ちしたの？」
「だ^これ^のが^ひい^ねう^をか^みば^くか^びめ^るが^な」

「ルヒネは小用を足しに
行くようです。」



「ここでもいいんだ」
はなれた場所しげみにつくとおもむむろに
衣服ふく全部を脱はないでいくではありませんか！

「ここでもいいんだ」
はなれた場所しげみにつくとおもむろに
衣服ふく全部を脱はきいでいくでは
ありませんか！

ござっしのとおり
 そうです！
 ルビネは、全裸ぱりんぐで用おしを足つかす派
 だつたのです！！！！！！！！！！

「まったくもつてきようはぼうけんが

すすんでいないぞわたしはえりーとなんだぞ」

大^{もろ}変^だ無^し防^ぽ備^りな格^じ好^んです！

さらにルヒネは、

膀^{るひね}胱^{きあい}に力^いを入れます！

感動^{すぶらつしゆ}まで秒^{すりーかうんと}読^よみです！



こねこ！



ル^るヒ^ひネ^ねは誇^{おこり}り高^{はな}きお^なんなのこです！
こんな場^し面^んだれか^みに見^みられたら
自^{ばい}害^{おし}を選^{よつ}ぶでし^くょう！

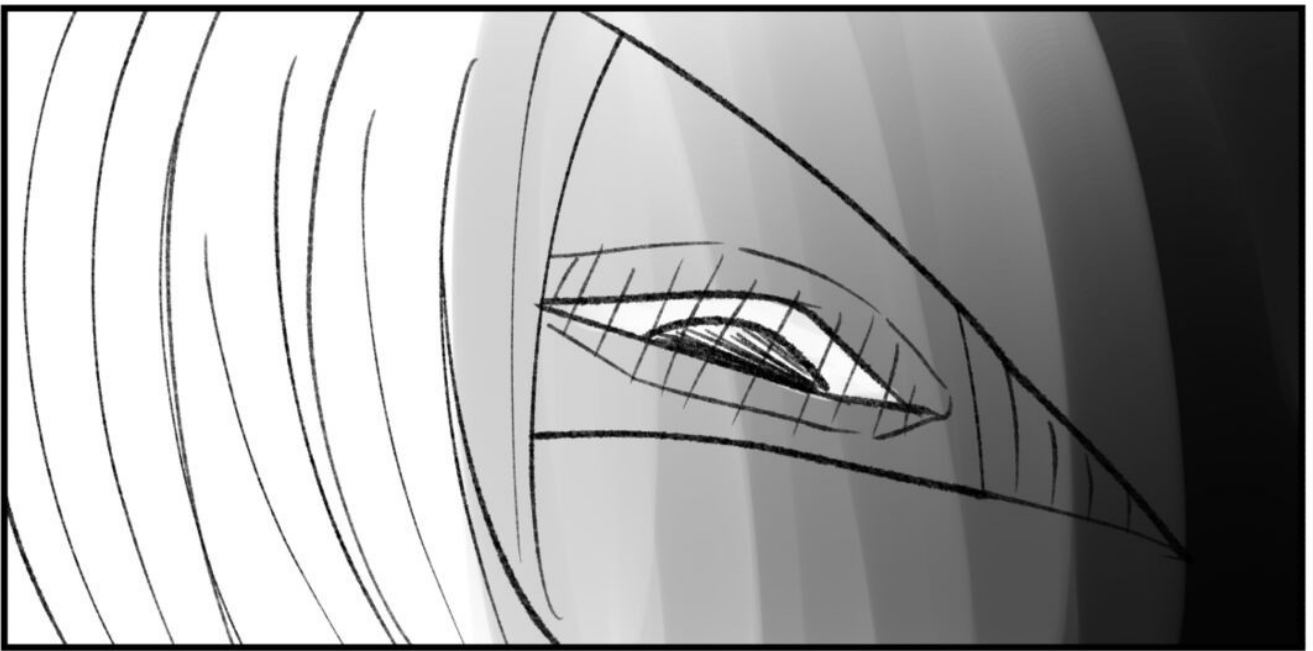




「やはり参加えんとうしていましたか。
お久ひさしぶりですねエえ」

全裸ぜんぶさで放尿はうにょうするルヒネのまえ前に
シリしりアあスすキきヤやラらが立たっていました





「きつちは——」

さくからのものだな。
あとなんのつもりだ
くずめ。さいていだぞ。」

「ハ！その幼い身体で

ご冗談をオ。

ここのたいみんぐ
こういう時じゃないと
蹴飛ばされそうだ。」

体勢を変えないまま

ルヒネは冷静です。

ポールドロンの男

との会話はそのまま

続くようです。



「いま知られている
たまねぎ山の構成はこう。」

「検査・観察と言いつつ、
この霊験あらたかな山には
多くの魔女がこぞって外征している」

「——第一層の森林地帯はともかく
向かうところになる
第三、第三の情報が足りなすぎる。」

「おおおおおおおお」

「いま知られている
たまねぎ山の構成はこう。」

「検査・観察と言いつつ、
この霊験あらたかな山には
多くの魔女がこぞって外征している」

「第一層の森林地帯はともかく
向かうところになる
第三層の情報が足りなさすぎる。」

しょおおおおおおお

「いま知られている
たまねぎ山の構成はこう。」

「検査・観察と言いつつ、この霊験あらたかな山には
多くの魔女がこぞって外征している」

「第一層の森林地帯はともかく
向かうところになる第三、第三の情報が足りなすぎる。」

しよおおおおお

「いま知られている
たまねぎ山の構成はこう。」

「検査・観察と言いつつ、この霊験あらたかな山には
多くの魔女がこぞって外征している」

「第一層の森林地帯はともかく
向かうところになる第三、第三の情報が足りなすぎる。」

しよおおおおお

「ぼかあお宝^{とるもん}を。貴女^{あなた}は…目的^{おつとつと}を。

——いいと思うんですよねエ。

ここはまほうのくに出身^{きよん}どうし協力^{きやくり}して
ライバル^{りふる}たちに差^さをつけ^{つけ}ましょうか。」

「ことわる。このルヒネはごろつき^{かたくな}とはく^ななない！」

しよおおおおおおおお

「はああり!? なんですと! おい! なんでだ!」

「こういうこたえもかんがえてなかったのかよ...ばか。

そもそもおとしつこちゅう
でりかしーにかけたおところは
おことりだぞ。」

「そうか! 貴女は志が低いんだ!

秀でた水の魔女でありながら

上昇ではなく、人探ししてるんだろ!

調べたから知ってるぞ、たしかそいつは、

「おい、名を言うな」





「メブ
ラ
ブ
ヴ
ラ」

ふあ

「なまえを…よんだな…きさま…つぶす！」
ルヒネは戦うために立ち上がります。
なお、おしつこは未だに放出し続けています。
つまりそのため脚に尿がかからないように
不格好ながに股なのです。



「おおん!? その格好で戦るつもりですかね！」
対峙する敵はほくそえみます。

「いいか！ばかあ

服ふくを着きている！

それも軽ちやう鎧いんの下したに

四よ枚まい重おもねだ！

相あ対たいする貴あなた女をは

すっぽんぽん！

その上しかも女子いちばんとして絶か対しに

見すせていをけさない姿しでさ！」

「おやあ！怒りきんと陰で核くが立たち上あがる特とく徴しも

はっつっつっつきりわかりますよお！

下げの毛けも生はえんてだないから鮮あ明めいに白しろ日ひの下したに！

尿おし道つから出でる飛と沫はでブルブル勃はち振ふるわをせる様ようが

見みるも滑は稽き語ごるも滑は稽き！これこれれがルビネ様さまのおおししつつここだだくくいい！」

男おとこは言こと葉はで凌き辱よし言こと葉はで殺ころしにかかかります



「おまえとくきが

しつれいだぞ！」

くらえ！
乾坤一擲の一撃を！



「あいたたたたあ♡」
重^ぽ装^ー備^るの男^{どろん}はバ^ばラ^{らん}ンス^すを
くずし^たつつも耐^たえまし^たた!

ピンチ! 片^お脚^{しつこ}を掴^でまれ^{るま}
なん^なとも無^び防^ん備^ちです!

「ぐふ……この名^な前^{まへ}にこ^ここま^まで執^{しつ}着^くするとは……
あ^あな^なた^たさ^さま^まを^を派^は閥^ふに^にひ^ひき^きこ^こむ材^ふ料^ろを^を見^みつ^つけ^けたぞ!
それ^{これ}から^{すな}こ^わの^ちぼ^くも元^お老^お院^とに^に認^みめ^められ^{られ}——」

「しらんわ！」



二の太刀^ほ！魔法^ま的な加速^{そく}を得^えた利^きき足蹴^{あし}りです！

「うわああああ！」

男^{おとこ}は崖^{たき}から落^おちて死^しにま^ました。



「めぶらふ
メブラフ…」

のこるおしつこをだしながら
ルヒネの回想がはじまります



メブラフヴラというごども



ルヒネのおうちにひきとられ
たいそうなかよくすごしていました



メブラフヴラのつむぐいと
ルヒネのおるきじ



ふたりはまほうのくにでいちばん
あついきょうぎ「おさいほう」の
たぐいまれなるさいのうがありました

あるひのたまねぎやまにけんがくりよう——
メブラフヴラは「あがりびと」になったのです。

どういったおもうところがあるかはともかく
そんなゆうじんをそんちようし、べつべつのぼしよで
ふたりはけんさんをかさねてきました。

そしていま、ルヒネはひとりでのぼるきよかがえられる
としになつてすぐ、おうちをとびだしてきたのです。

たまねぎやまにきたのは

ここにくらすメブラフヴラにあらためです。

あ　　びと ～上がり人～

ひと　　た　　か　　み　　く
人は標高の高い場所に来ると
きもち　　たか　　たいくつなにちじょう
神性が高まり地上の生活には
かえ
戻れなくなるといいます。



さいこうほうにいどんだもの　　げざんしゃ
かのエベレスト登頂者に帰還者がこれまで
ぜろにん　　ゆるぎないぷる　　一ふ
皆無なのもその事実の裏付けです。



めぶらふ
相棒は

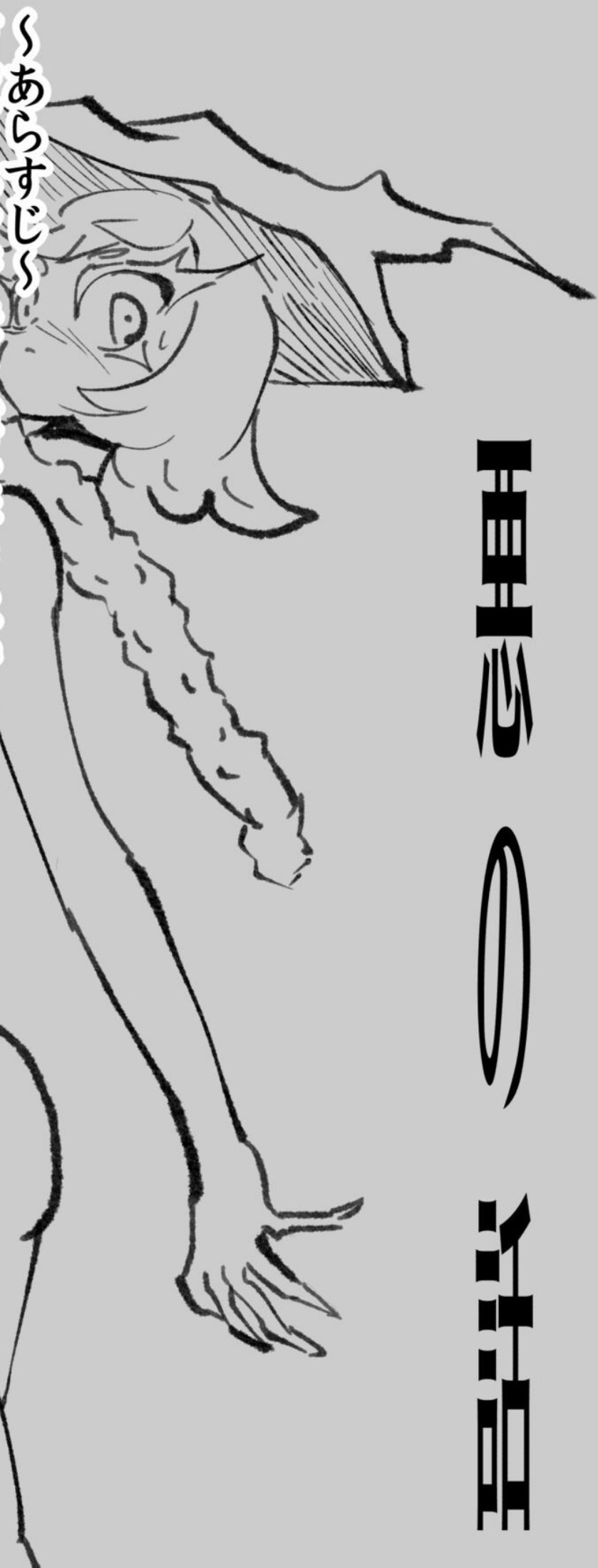
もういないけど

また戻^{かえ}ってくるんじゃないか

ルヒネは今^{いまだ}も

盗^やられました





くあらずじく

ざ・おんりーわん・はーべすと・でざいにすと・るひね

まほうのくにの魔女つ子ルビネは

ばわすぽ

修研地たまねぎ山に修行を兼ね昔わかれた幼馴染にあいにきていました。

やま

そられん

つれのーだちこ

う

出会った迷子の同じ年頃の男の子を案内をしつつ冒険をすすめます。

これがまたむかつく

がきやろう

う

あやめいしん

ごろつき

おしっこしてる途中、まほうのくにの追手があらわれ名家の嬢である

ルビネの身柄をねらってきますがなんとか撃退。

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

「タ^たリ^りオ^お！そっちはぶじか！」



せいふりつじやうが
いふくをぬすまれた

ルヒネがおとこのことごうりゆうしました。

しめい
あほでむのうでたりないおとこというじで
ちなみにこいつの名前は足りない男と書いてタリオです。

「まほうのく^ににからのめんどろくさいすかうとか？

いや、それならさっきのやつみたいになちよくでくる……

それならばげんじゅうみん、いや、もりぜんたいが……？」

おまたまる^{だしまる}だし^{ふける}で思案する^るるひねです。



ルヒネは無毛ばいばんの倭黎明われめを数刻しばらくのあいだ
ぷるんぷるん
プルプルゆらし、これからのことを決断きめしました。

「じょうきょうがきけんになつてゐる」

「きみはわたしからはなれる」

「おちつけつて！」

「がきやろうタリオは驚天動地の凶行にでます！
ぐらうんど・ぜろルヒネの女性器を万力のごとく手掴みしたのです！」



「そ・も・そ・も

ぼくのかえりみちを

みつけるやくそくだろう？」

「いたた！どこひっぱってる！

おんなのだいじな

ところをちぎるきかく！」



「それに、こまつてるおんなのこ
をほうっておけないしね
ぼくはついていくぜ」



こいつはやくしなないかな

「たりお……」



さっ
不快感50割増の「悪の話」
わりまし
ねが
るひねのはなし
よろしくお願いします

「あちゃーおま○んこにぎりしめてたから
ゆびににおいがついマ・ン・コ
「かぐな! いうなあ!」



どろぼうをおいかけます

「ふくどろぼうはこつちのほうごう
でまちがないんだな！」

「ああ、おとがきこえたぜ——てか」

「おこつてると
あすたりすく／＼きゅつとなる
おしりのあながしまるんだな」

「ばか！」

そこらへんの^{もの}物体で
衣類をこしらえました

「すくないけどないよりもましかつ」
ルヒネは伝家の宝刀のおさいほうをひろうしとくいげです



「ようし——きけんなやつはいないようだね……」

「おーい……まあいいや」

トホホり!! いまのマジカルりよくでは布面積がたりなすぎて
タリオからじよせいきがまる見えな真実にまだきづいていません!

かわをわたります

さいわいあさい川^{かわ}なので
荷物^{もの}をまとめてとおれるようです

「ぼくがあずかるぜ」
「みずにつけるなよ」

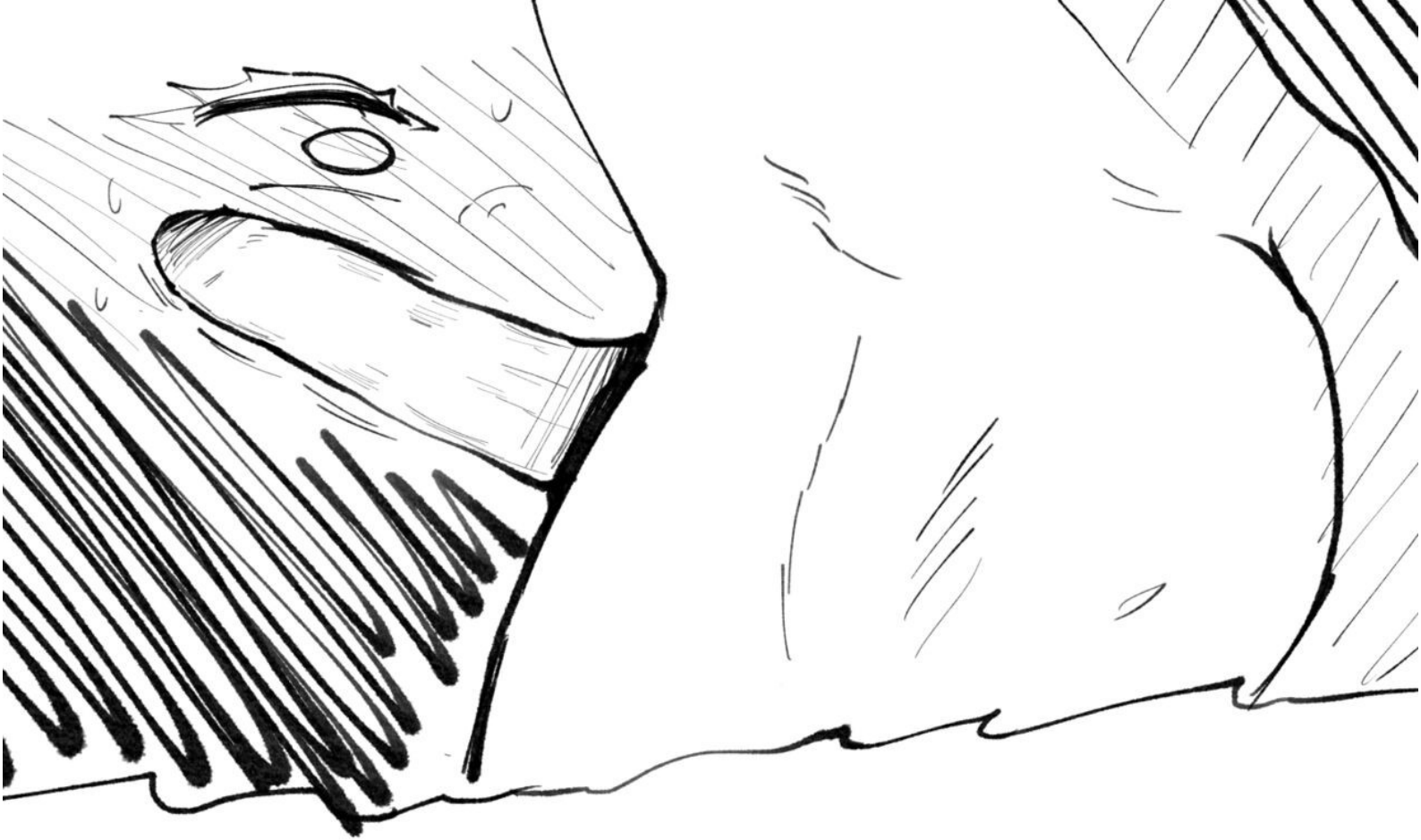


ということはこいつも
脱着^{ぬぎ}でるのか？
……どうでしょう

そんなのきもち
知的好奇心でした







「わり、ぬらしちゃった」

ほんとうにつかえないおとこです



(ち!ちんちん!ちんちんだ!)

(わたしをみてっでことだよな?)

さわつてもいいのか……?)

ルヒネは六魂六塵^{せいしんりよく}三世でおさえこみました



ここからさきのページはまえのページから
^{すうねん}数年たって描^かいたものです
ちがっててもゆるしてね



悪の話

たまねぎ^{やま}山の森・終着点

においを辿^{たど}つてきたルヒネとタリオの^{まえ}前に

ふくどうぼうはあらわれました。

なんてことない、ちやちい樹木^{ざいもく}のモンスタ^{ばけもん}ーです。



「メブラフ………なのか？」

「ルヒネア………きやがつたな」

木モンスターのおくに

なつかしい気配をかんじとりました。

操縦者は、ルヒネアがこの山でさがしていた

幼馴染のメブラフブラだったのです！



「もつとはずかしいすがたにしてやる
そうじゃないとわりにあわないなあ」

「メブラフー! どうしてだ!」

もりあし
森を手足ののように
あやつ
操りルヒネを
あられもない姿で
こてい
固定します!

とひとひたいみよだけよんでください
メブラフブラは、元々アパレル系魔女の名家であるルビネの家を
乗っ取る目的のために共に幼少期を過ごしている賊の出自でした。
しかし自分の才能が全く及ばない事に思うところがあり、
魔山たまねぎ山に籠りました。魔エネルギーを吸いながら過ごすも
山に自身の霊が分解され、たまねぎ山のフロアボスとして
復讐の時にここで待っていたのです！つまり、逆恨みです！



「ようぶんを、すいつくしてやる！」

服も破かれ、末端の事務所の
撮影でもしないような
超えび反りに折り曲げられ、
裸体が露わにされ、
魔立ナジーを吸い取られる
ルヒネ、絶体絶命です！

「くそっ！はずれねえ！」

偉^たり^りお^おの^のく^くそ^そは^はこ^これ^れみ^みよ^よが^がし^しに^に
ル^るヒ^ひネ^ねの^の女^に性^せ器^きに^によ^よび^びか^かけ^ける^るし^しか^かで^でき^きま^ませ^せん





「タリオ! わたしに
かんがえがある!」

「きつけがひつようだ!

さつきからみてるおんなのこの
お、おちん………とがった
ところをかるくしげきして!」

「はあくつたく
しょうがないなあ」





げろえぐいしやぶりつき
執拗な責めにルヒネの
ばないもんすたーえねるぎー
膨大な魔パワーが

ま
ず

い





アパレル魔女である以前に
「水」の魔女である素養が
周囲の「導管」を膨らませ

ばりーんいうとります
大爆発するのです



ぜろでい
大爆発の後、
もりは焼失、
森林は焼失、
この山が現実と切り離されて
知らしめてくれます。
地平までみえています。
この山が現実と切り離されて
知らしめてくれます。
この山が現実と切り離されて
知らしめてくれます。

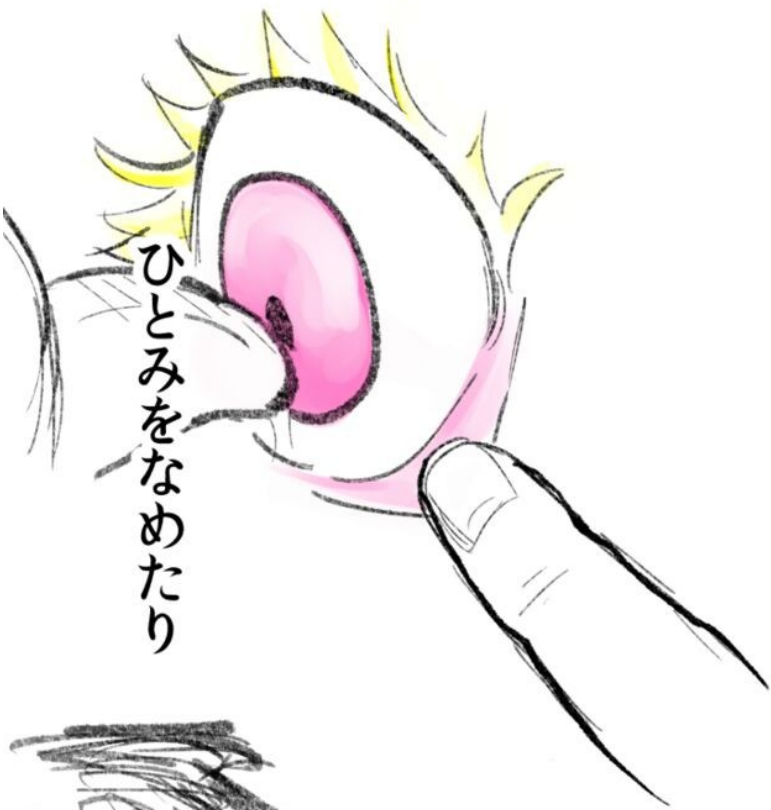
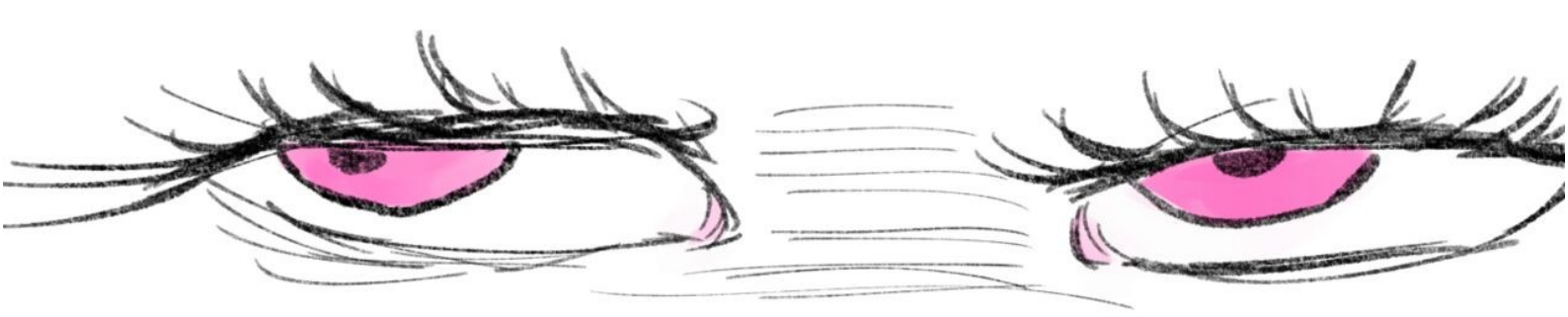


「なあ、これからどうするん」

「ひとりにしてくれ
.....」

この魔女式たまねぎ山行脚の
めだま
目標だったお友達がいなくなり、
しかも友達じゃなかったシヨツクで
ルヒネは意気消沈しています。





ひとみをなめたり

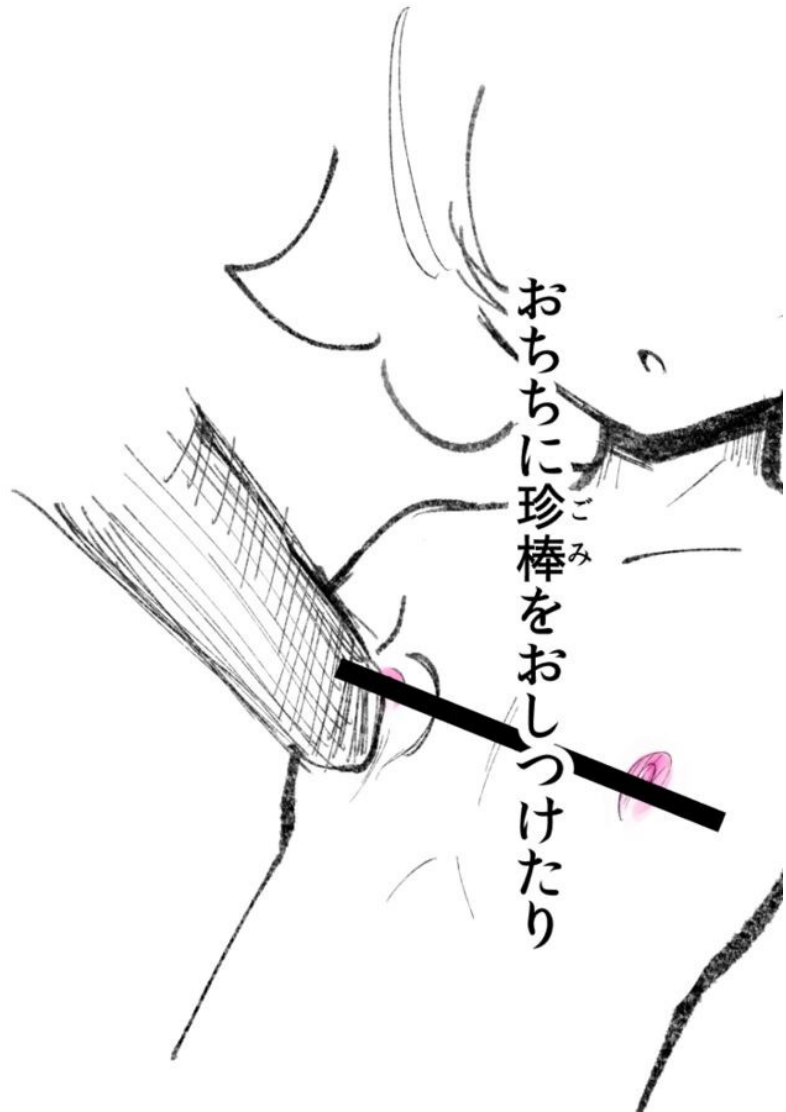
「おいおきろー」



はなに指ゆびを入れたり



タリオはルヒネの
肢からだ体がを使ほいたふいれ放み題あです！

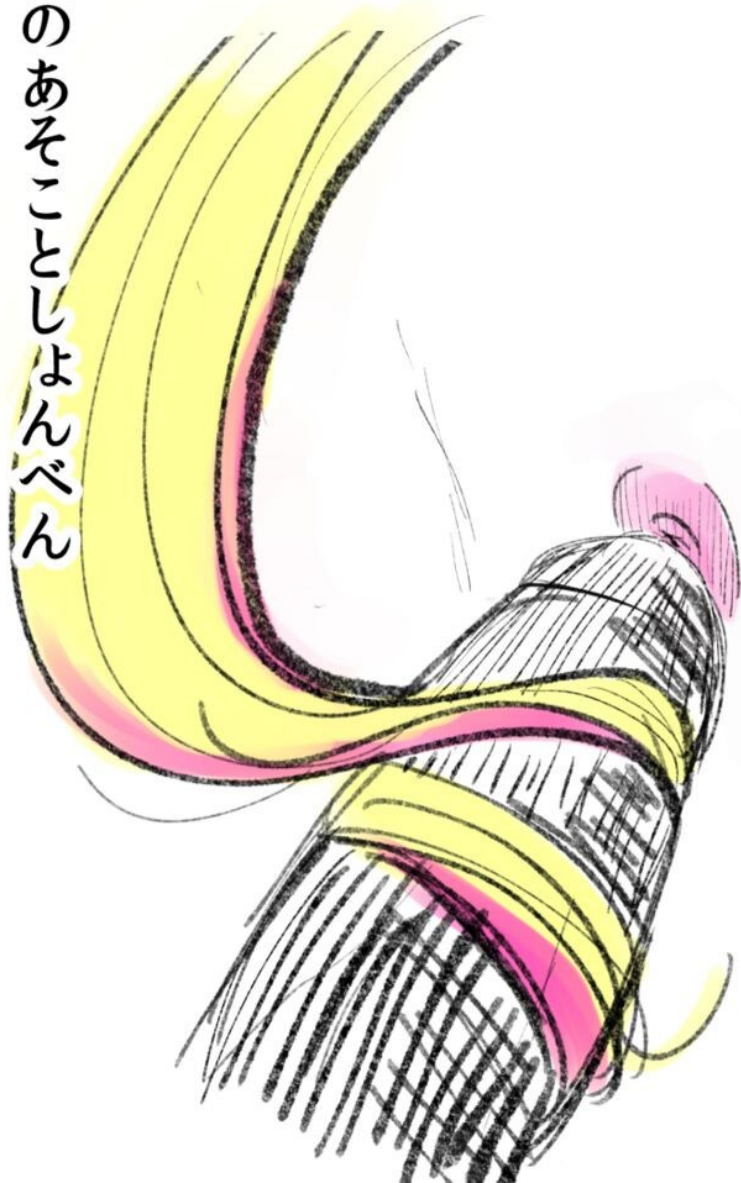


おちちに珍ごみ棒をおしつけたり

「おおーい」



「おまえのあそことしよんべん
みだいないろのかみよごしちやうぞー」



「これでもかー」

「さっきまでおったつてた
のに、ここ、しなしなだね
みかんつぶみたい
そーれひよこひよこ」

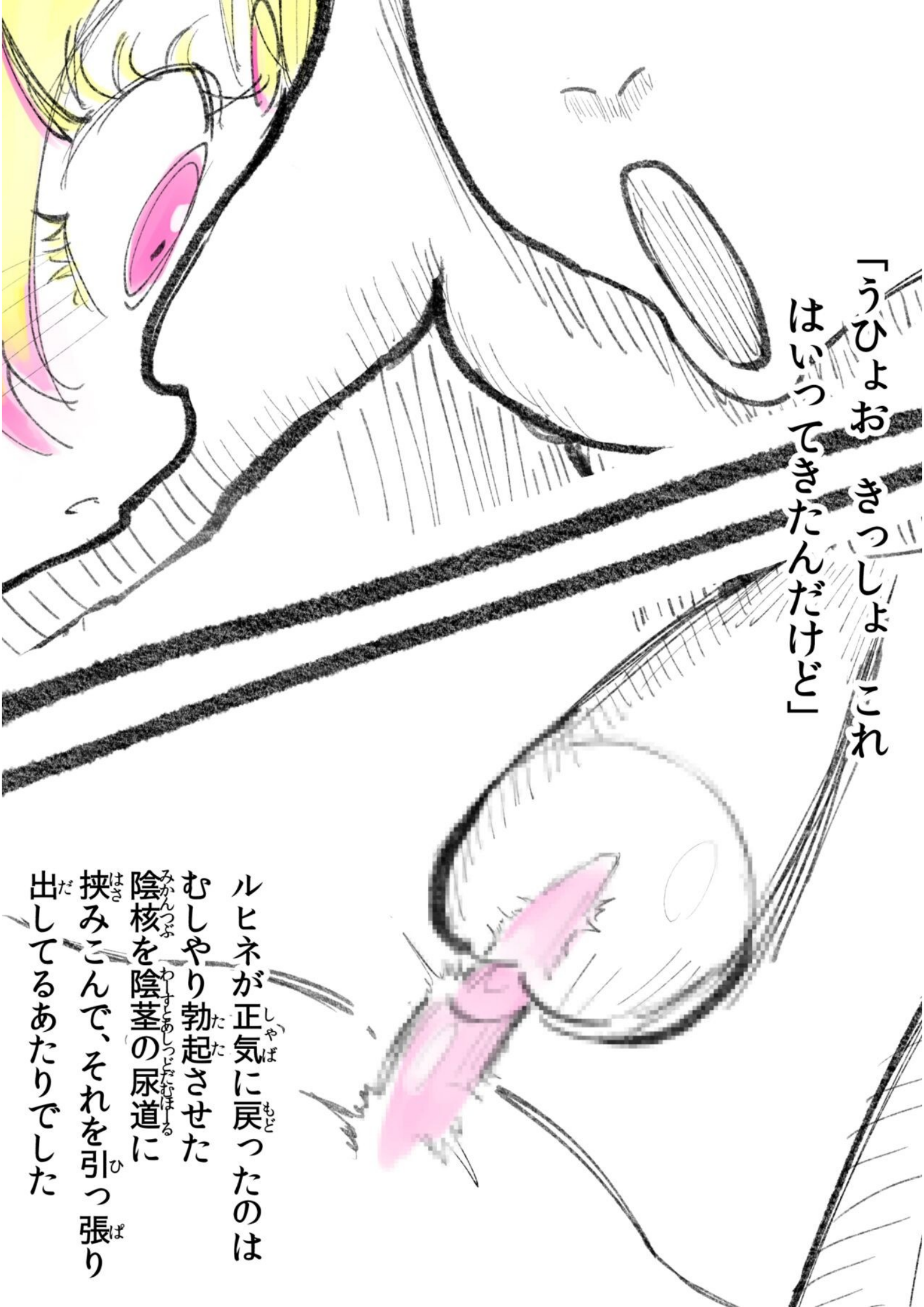


Chap

「おっおっ

かわいいかおして、
おまえ、この」





「うひよお きつしよこれ
はいつてきたんだけど」

ルヒネが正^{しやま}気^{もと}に戻^{もど}ったのは
むしやり勃^た起^たさせた
陰^{みかんづぶ}核^{わす}を陰^{わす}茎^{あしつゐ}の尿^ち道^{みち}に
挟^{はさ}みこ^{はさ}んで、それ^ひを引^ひつ張^ばり
出^だして^だるあ^だたりで^だした



「なにやってんだああああ！！！！！！！！！！」

もんまじとれだか
当然の反応です

ぬぽっ

ルヒネは上あせんに登る旨を表明たねばれしました。



「メブラフはぎえてはいない
くだかれたたましいは、
まだこのやまに——」

「まじよだからじゃない、

ともにずっとしてきたからわかるんだ』



.....



ここからさきは険しい道です
どらごんろーど

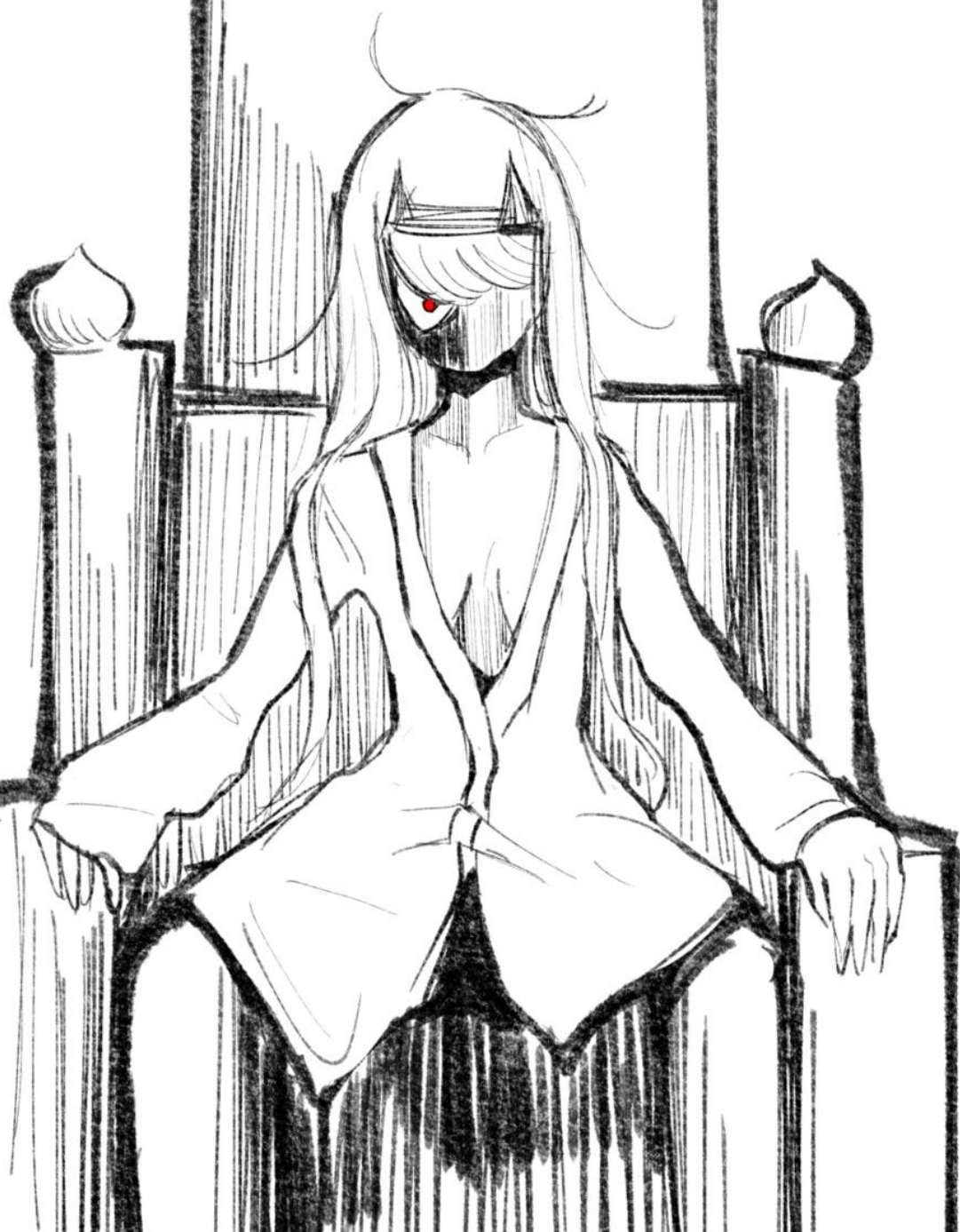
件の日本魔女コノチ以外にも
頂上踏破をたくらむ手強い各国の魔女
と遭遇することもあるでしょう



ねぎやま・へるせかんど・ろっとうざこあ
たまねぎ山・第二階【温泉街】

「メブラフブラーがやられたか」

なにやら不^き穏^なな感^くじ^さです



(あいつをくるしめていたわたしはあくだった——
それでもいもひくりゆうにはならない、またあうんだ)
ルヒネは倭黎明^{われめ}まるだしでタイトル^{たいとる}を回収^{まきとり}しました。



でも賢明^{けんめい}な読者^{おまへ}諸兄^{しよけい}ならわかるでしょう

最低^あの悪^く人はてめーだ!!!



死ね しね

タタキ



おしまい

おまけ・立^たつたまま嬉^{うれ}しよんするシ^しーン描^かきたかつた



かつてにしろ……